

【感想】

No.	感想	講師からの回答
1	わかりやすい講義内容で共感できました。誰もがひきこもりになるきっかけがあると知りました。実際の8050の事例や、学校の不登校の子どもさんの事例などもお話しただけなら聴いてみたいです。	そうですね。また機会がありましたら不登校の事例などもお伝えできたら、嬉しいです。
2	生活困窮者自立支援事業、自立相談支援担当者として参加させていただきました。 引きこもりの方への支援は重要度が年々増していることは感じているものの、支援の難しさを日々感じているところでした。 当事者支援という目線、家族支援という目線からのお話、当事者と当事者家族の生の声をうかがうと、支援者側の知識や対応、意識が非常に肝要になってくることを改めて感じました。 自立相談支援担当としては就労に目がいきがちなのですが、安易に就労や仕事につなぐことにならないよう、丁寧なインテーク・アセスメントを心がけていきたいと思います。 大変参考になりました。ありがとうございました。	ありがとうございます。そうおっしゃって頂きますと、私も大変嬉しく、励みになります。そうですね。これからの支援は、就労がゴールではなく、その人がその人らしく生きていけるサポーターの役割が求められてきます。就労一步手前の段階的な支援策として、心情面の充実を図るため、3つほどステップを設け、選択肢を増やすこともお勧めです。 これから、ますます皆様のご支援を必要としておられる方が、たくさんいらっしゃると思います。
2	最近の新しい調査結果の資料に基づいた分かりやすいお話が聞けて大変参考になりました。	ありがとうございます。
3	ひきこもりの方に接したことがなかったので（無理だと思ったから）具体的な事例等が紹介されていて、興味深かった。法律があることも初めて知りました。	お聞きいただいて、ありがとうございます。

【質問】

No.	質問	講師からの回答
1	福祉分野は非常に難しく奥深く、地域で支援しているような事例を紹介していただきたいです。家族もちろん本人にも会えない場合はどうすればいいでしょうか？	「本人にもご家族にも会えない」という場合には、2通りのパターンがあります。1つはご家族が困っておられない場合です。家庭内では普通に会話があり、家事手伝いや親の介護を担って、ご家族の助けになっておられる場合です。 1つは、ご家族との関係も悪くなく、親御さんも「外で働いてはいないけど、家事手伝いや親の介護をし、家族を助けてくれているから、困ってはいない」という場合です。第三者から「ひきこもり」に見えても、そうではなく、ご家族にとっては大切な役割を担っている方かもしれません。この場合は、ひきこもりではありません。 もう1つは家庭内でも会話がなく、部屋にひきこもりがちで、ご家族との関係が良くない場合です。このご質問は、こちらに該当すると思われます。直接本人さんに会うことができず、またご家族は、世間体を気にされ、誰にも相談しておられない場合です。民生委員さんや福祉課の方々から、あくまで「親御さんへのアプローチ」として、「健康観察」「家庭内でできる100歳体操」などの形で訪問しながら、「ご家族の方へのアンケートに答えて頂けますか」という自然な流れで、子どもさんにも会える、機会を作ります。月1回か2回で負担にならない訪問を続けます。まず、本人さんの話を丁寧に傾聴することから始まりです。問題視するのではなく、本人さんの気持ちを尊重し、ひきこもらざるをえなかった経緯や、「気持ちを理解したい」という姿勢があれば、おのずと信頼関係が生まれていきます。本人さんにとっては、自分の話を聞いてくれる第三者との出会いが、人生を変える大きな一歩に繋がっていきます。
2	親ばかり困っていて、本人になんの困り感もない場合はどのようにアプローチすればよいでしょうか？ 親に何かあった場合確実に困窮状態になってるのではと思っています。	本人さんに困り感がないのは、「困っていないから」というのが事実です。しかし、親御さんは本人さんが「働いていない」ことに困っておられます。ですが本人さんには、何らかの理由により、働きたくても働けない事情やあるいは、精神的な病気を発症しておられるかもしれませんので、第三者が一方向的に問題視するのは、良くありません。この場合は2通りのことが考えられます。 上記質問NO.1の回答3行目「1つは、ご家族との～」と回答が同じになりますのでご参照ください。

3	<p>今日の講義でお話しされていた支援は、ひきこもりの方の本当に願いに寄り添えているといえるのでしょうか？ほとんどの方は、現状を変えたいと思われていると思います。その思いに寄り添う支援も必要ではないかと思えます。例えばボランティア活動などに参加し、困っている方に「助かったよ」「ありがとう」と言ってもらえたり、自分の意志で行動しそのことが誰かに喜ばれるといった活動を通して、自分の存在が認められている、存在価値があると思えるようになり、それが現状を変えていく力になるのではないかと思います。まずは寄り添うことも必要ですが、本人や家族の「どうなりたいのか」「どうなってほしいのか」というところの支援も大切だと思います。遅れての参加となり、全て聞くことができていないので、そのようなお話をあったのであれば申し訳ありません。ありがとうございました。</p>	<p>そうですね。ご家族は大概「現状を変えたい」と思っておられます。そして、そのように本人さんに言い続けてこられた場合、ますます部屋にひきこもってしまったり、会話もできない状態になってしまうことが多くあります。</p> <p>本人さんにとっては、ひきこもらざるをえなかった経緯や傷ついた心を理解し、寄り添ってくれる人がいれば、回復への道が開かれます。働いていないことだけを責められ、否定されると、苦しみや辛さを抱え、ますます孤立してしまいます。それが長引くと、いつしか「自分なんかいないほうがいい」という気持ちになってしまい、周囲が本人さんの心からのSOSがつかめない場合、命の問題となってしまいます。</p> <p>セミナー、現在ひきこもり状態におられ、外出することにまだ抵抗があり、人との関係に不安を抱えておられる場合の周囲の関わり方についてお話させていただきました。いくつかの段階を設けて、心情的支援から丁寧にアプローチすることが重要になってきます。いきなり就労支援になれば、本人さんにとってハードルが高く、例え就労できたとしても「継続が難しい」というデータが示されています。ですから、就労に至るまではいくつかの段階が必要になります。本人さんがご自分の人生を前向きにとらえられるようになっていけば、結果的に継続就労に繋がってきます。「どうなりたいのか」という思いは本人さんの主体的な意志から生まれるものだと思います。また、おっしゃるようにボランティア活動への呼びかけは、その時期が本人さんの希望に沿っていれば、参加しやすくなるでしょう。</p>
4	<p>・兄弟の関係。兄弟で支え合うことがなかなかできない。ひきこもりの兄を弟がなかなか支えられない。)</p>	<p>兄弟は親とは違い、対等な立場での厳しい目線になることが多いと言えます。また、親の愛や関心が、兄の方にばかり向けられてきたのではないかと、という不公平感や「年老いた親に迷惑をかけて許せない」という気持ちになりやすく、兄弟関係はギクシャクしがちです。ましてや「兄を支える」ところまで考えが及ばないケースが殆どです。</p> <p>ですから弟さんの寂しい気持ちにも寄り添ってあげるために、親御さんは弟さんとも個別に話す時間を増やし、「あなたにも苦勞をかけて、すまないね」というねぎらいの言葉をかけてあげて欲しいと思います。無理に協力をお願いするのではなく、弟さんの方から、自然に兄を支えたいと思えるようになるまで、弟さんへの愛情も大切にしてください。</p>